



総領事 ご挨拶

今秋は多忙で内外の関心を集める時節となりました。先月の「世界のうちなーちゅ大会」は大成功裏に閉幕いたしました。今大会にはアメリカからの参加者が他のすべての国々からの参加者の総数を上回り、このことはアメリカ合衆国と沖縄の人と人の絆がいかに深いかの象徴となりました。私はアメリカの沖縄県人会のリーダーの方々に、帰国後も引き続きこのような絆を、教



[続き](#)

★ 領事館情報 ★

@USConsulateNaha ツイッターを始めました！日々の出来事やイベント情報等を「つぶやいて」います。フォロー、よろしくお願いします☆

領事館と英語で朝活☆は毎月第2・第4(火)にスターバックス浦添パークレーズコート店で朝7時半から開催しています。気軽に英会話を楽しみませんか？

[続き](#)

安全保障概念の認識相違

沖縄の米軍基地再編への取り組みの努力における一番の課題は、おそらく安全保障概念の認識の相違ではないでしょうか。沖縄のオピニオンリーダーの一部の皆さんの見解を聞いたり読んだりすると、東京やワシントンのみならずアジアのその他の地域の一般的な認識とはだんだんかけ離れていっているように思われます。認識の相違を縮め、現実的かつ非感情的な方法で基地問題に対処することが、沖縄県民を益し、アジアの平和と繁栄を維持する結果をもたらす唯一の道筋だと思います。私達は、この問題を沖縄県民の利益を犠牲にするのか、またこの地域の何百万人もの人々の生命を危険にさらす戦争のリスクを増大させるのか、という二者択一の議論にしてはなりません。

[続き](#)

エコノミック・パルス

グリーン総領事、奄美大島と徳之島を訪れる

グリーン総領事は10月3日から4日にかけて、初めて奄美大島と徳之島を訪れ奄美市の福山敏裕副市長と徳之島町の高岡秀規町長を表敬訪問しました。表敬訪問で、グリーン総領事は奄美地方に滞在している米国人が事件や事故、災害等に遭遇した際に、速やかにサポートできるよう在沖米国総領事館へ連絡頂けるよう依頼したほか、経済分野での協力や人的交流の可能性について意見



高岡徳之島町長と並んで座るグリーン総領事

[続き](#)

広報コーナー

今回は、アメリカ情報コーナーとシェルフについて紹介したいと思います。アメリカ情報コーナーは市(図書館・異文化交流センター等)と国務省(大使館・領事館)がパートナーを組んで、アメリカに関する情報を提供したり、英語教育を後押しする場所となっています。国務省が必要な書籍、情報、物品を提供し、管理や運営は図書館や交流センターに協力してもらっています。様々なイ

[続き](#)

ウランダぬ風

[中国の海軍戦略に関するニューヨークタイムズ紙記事](#)

[クリントン国務長官は日米評議会\(U.S.-Japan Council\)の2011年次総会で「イノベーション・教育・協力を通じた日米パートナーシップの推進」と題して講演した。](#)

[続き](#)

か
ら
は
ー
い

2011年第3号 2011/11/08



安全保障概念の認識相違（続き）

県外の皆さん方が沖縄での安全保障に関する議論で最も驚かされることは、軍隊のプレゼンスが紛争の危険性を増大させると一般的に信じられているということです。第二次世界大戦以後のアジアの歴史は、その逆が事実であることを証明しています、つまり、安全保障の真空状態の存在は軍事力の使用コストを受容レベルまで引き下げということです。例えば、北朝鮮は米軍が朝鮮半島から撤退した後韓国に侵入しました。同様に、1970年代以来、南支那海における中国の係争諸島の占有は、先ず米軍のベトナムからの撤退、それからフィリピンからの撤退の後にもっぱら起こっています。他方、1950年の台湾海峡、更には1953年以後の韓国における米国の確固たる軍隊配備の支援政策方針で、予想された紛争は回避されました。このことは、潜在的な敵対者が軍事力のコストが利益をはるかに超えることを実感し、その代わりに彼等の国益を追求する為には、外交的あるいは経済的なチャンネルを通そうという気にさせるからであります。



この論理はアジアのどこでも常識として受容されていることです。それにもかかわらず、沖縄のオピニオンリーダーの一部の皆さんは、台湾と中国の貿易拡大や友好な結びつきを指摘し、抑止力は時代遅れで不必要だと逆に訴えています。この見解は、なかんずく台湾の防衛能力の増大努力を見落としています。先月馬英九総統は、「強い防衛力のみが台湾の安全保障のセーフガードとなり得、そして海峡交流関係の更なる進展を追及するわが国民に自信をあたえる。」と述べられました。アジア太平洋地域の他の国々は、最近の地域全体のパワーバランスのシフトが新たな安全保障の真空状態を生み出し、死

活的なシーレーンを脅かし、領土紛争の平和的な解決を阻むのではないかと懸念を増大させています。このような事態が発生することを阻止する為、韓国から東南アジアに至る国々は、この地域に於ける米国のより強力なプレゼンスを求め一方で、それぞれの国々独自の防衛即応力を増強しています。パネッタ国防長官が先月東京訪問の折に言われたように、世界の決定的に重要なこの地域の平和を確実に保証する為、アメリカ合衆国は他の地域では予算の圧力から削減を余儀なくされることがあろうとも、アジアにおいては我が国の能力を拡大します。このような明確な声明と方向性は、米国の財政圧力が一面的な米軍の削減をもたらすと沖縄では多くの人が期待していることとは逆行するものです。

このような地域力学について共通の理解を確立することは、沖縄における基地問題解決を前進させるうえで重要なことです。米軍のプレゼンスは地域安定の要です。米軍の戦闘部隊や施設等のハード面での抑止力を提供することに加えて、米軍の前方展開は、北東、東、東南アジア地域のパートナーと共に訓練や災害救助活動に日常的に従事できることを可能にしています。これは翻って、つい最近、誤算により悲劇を引き起こした安全保障の真空状態のような事態の発生を予防できます。

米国は沖縄県民に対し私達のプレゼンスが可能な限り控えめであるように勤める所存であり、そのことを最善に行う為、地域社会からのご意見、ご提言を歓迎します。それと同時に、沖縄のオピニオン・リーダーの方々が、イデオロギー、非現実的な願望、感情を超えて前進していくことを期待します。軍事再編は単純に地域的な政治や歴史の問題ではなく、アジア太平洋地域全体の将来に関わることです。沖縄県民とその他のアジアの皆さんとの利益が異なる必要などありません。幅広い状況、背景の理解を共有することが、お互いの利益が異なるものでないことを確実に保証します。



エコノミック・パルス(続き)

交換を行いました。

徳之島町では、町役場の職員、奄美大島青年会議所の会員や農業畜産に従事する若者ら約30名との意見交換会を兼ねた夕食会も行われました。グリーン総領事が、最近の日米両国の経済関係のイニチアティブ及びイノベーションやクリーンエネルギーを推進するための二カ国間の対話や環太平洋パートナーシップ協定(TPP)についての米国の考え方、加えて東アジアでの安全保障の動向や人的交流について講話をしました。TPP、特に徳之島の主要産物であるサトウキビへの関心が高く、参加者との意見交換が活発に行われました。

[1ページ目に戻る](#)

広報コーナー(続き)



浦添市立図書館アメリカ情報コーナー

イベントやプログラムもアメリカ情報コーナーで開催されています。

在沖米国総領事館は県内2つの図書館とアメリカ情報コーナーの提携を結んでいます。一つは浦添市立図書館で、もう一つは名護市立中央図書館です。それぞれの図書館のアメリカ情報コーナーでは、図書館が市民の方々のために厳選した英語の絵本や小説、日本語のアメリカ紹介本やビデオ等が領事館お薦めの本と一緒に並べられています。

洋書は高くで自分で買うのはちょっと、という方や英語の勉強をしたい！という方にはぜひ利用して頂きたいコーナーになっています。また、日本語と英語がセットになっている絵本もあり、読み聞かせのCDがついている絵本もありますので、小さいお子様をお持ちのお母様方も必見です。

領事館では毎年書籍等の寄贈を行っておりますが、今年のアイテムには、“ぬいぐるみ付絵本読み聞かせセット”や、何と今をトキメク I p a d等が含まれております。若い世代の皆様には（自称でも結構です！）特に最新機器に触れてもらい、その経験を将来に活用していただきたいと願っています。

アメリカ情報コーナーでは、先にも述べさせて頂きましたように幼児を対象とした読み聞かせを始めとして、学生対象の英語ワークショップや一般対象の文化講座、コンサート等を開催しています。ぜひ、在沖米国総領事館のホームページやメルマガ、また各図書館のイベント情報等でチェックして下さい。どのプログラムも参加費は一切無料となっています。

また、アメリカ情報コーナーのミニバージョンで、アメリカン・シェルフというのがありまして、現在宮古島市立平良図書館が提携先となっています。こちらにも小規模ながら英語の絵本、書籍、I P a d等を今年寄贈致します。宮古島市民の皆様も、ぜひ、図書館へお立ち寄り下さい！



宮古島市立平良図書館アメリカン・シェルフ

[1ページ目に戻る](#)



総領事 ご挨拶（続き）

育、文化、あるいはビジネス、貿易の分野で深めていく努力を続けていただくようお願いをいたしました。私は沖縄が世界に広がる家族そして友達の熱狂的なネットワークを、グローバルな世界の中で、その存在感を高める為に生かせることを希望します。

日米も又、特に沖縄に焦点を当てた多忙な外交日程となりました。大統領、並びに国務・国防両長官は、沖縄における米軍基地再編がたいへん重要な局面を迎えていることを伝達しました。米国の財政状況に対する懸念が議会で強まり、沖縄からの海兵隊移転の見直しや財政支援の削減を求める声が高まっています。私は一部の人々が米国の予算のプレッシャーがワシントンで沖縄から更なる海兵隊移転に向かわせると期待する言動を耳にしますが、真相はその逆です。パネッタ国防長官が東京で表明したように、米国のアジアにおけるプレゼンスは全体の予算削減から除外されます。理由は単純明快で、我が方の前方展開はこれまでも増して、アジア、アメリカ、そして世界の平和と繁栄の為に更に重要だからです。もし私達がこの再編計画を実行できなければ、別の選択肢はなく現状のまま留まらざるを得ません。さもなければ、領土問題やその他の問題に関わる紛争を防止する為、米国の軍事力に頼る、日本のみならずその他のアジア地域の民主国家を危険にさらすことになるでしょう。

[1ページ目に戻る](#)

ウランダぬ風（続き）

[中国の南シナ海における活動の戦略的含意に関する朝日新聞記事](#)

[「米国の太平洋の世紀」 - クリントン国務長官のフォーリン・ポリシー誌への寄稿](#)

[1ページ目に戻る](#)

★ 領事館情報 ★（続き）

グリーン総領事「命のリレーから10年 進吾を集う会」に参加

平成23年10月30日、レイモンド・グリーン総領事は、那覇市内で開催された「命のリレーから10年 進吾を集う会」に参加しました。



米国で心臓移植手術に成功し、元気に活躍する新崎進吾さん（中央）とグリーン総領事。右は進吾さんの渡米へ全面的に協力した下地幹郎衆議院議員。

新崎進吾さんは難病の「拡張型心筋症」という重い心臓病を患い、2001年10月にアメリカで移植手術を受けました。移植手術は無事成功し、進吾さんは現在、元気で沖縄県内の病院に勤務し県民の医療と健康維持のため日夜力を注いでおります。この移植手術には、沖縄では下地幹郎代議士のリーダーシップの下、ヘイルストーン並びにグレグソン在沖米四軍調整官が寄付金集めや病院探し、更にドナー探しに全面的に協力し、深く関わりました。そして、米本国においては、当時米海兵隊の大將であった、ジェームズ・ジョーンズ氏が、特別な計らいで手術に至るまでの多くの障害を取り除いてくださり、手術が実現しました。これは沖縄と米国、米軍がよき隣人であることの証であります。

進吾さんが今後益々元気で活躍するよう、又沖縄県民とアメリカ国民が益々良き隣人であり、相互の親善・交流が拡大することを願っています。

[続き](#) [1ページ目に戻る](#)



15年もかけたのに…

★ 総領事館イベント情報 ★ (続き)



申瑛秀駐日韓国大使歓迎会

11月1日、グリーン総領事主催で申瑛秀駐日韓国大使の歓迎会を総領事公邸で開催しました。竹内春久外務省沖縄担当大使をはじめ各界から多数のご来賓の方々にご参加をいただき、歓迎会は華やいだ雰囲気の中にも和やかな楽しい集いになりました。

申大使は今回二つの目的で来県されました。アジアの安全保障の要である在沖米軍基地の視察と、韓国と沖縄の交流促進であります。

グリーン総領事は歓迎の挨拶の中で、沖縄と韓国の数百年に亘る友好親善の歴史と、日米韓同盟がアジア地域の平和と安定、発展に果たしている役割について言及しました。

11/5-領事館職員はカテナ・スペシャル・オリンピックにボランティアとして参加しました。競技とエンターテイメントが一日中続き、1,300名超の選手とアーティストの皆さんが参加されました。99%以上の参加者の皆さんは沖縄県内の障がい者の皆さんでした。

11/12-ホワイトビーチフェスティバル及び揚陸艦ジャーマンタウンツアー

11/17-東京学芸大学附属国際中等教育学校による領事館訪問

11/19-フルブライト・アメリカ留学相談会 場所：琉球大学千原キャンパス 時間：午後1時半～午後5時半

11/24-領事館職員は感謝祭の祝日を家族で祝います。

12/9-シンポジウム「東アジアの安全保障と日米同盟の役割」を開催。このイベントはハワイ・ホノルルに拠点を置く、戦略国際問題研究所(CSIS)との共催となっており、一般に公開されます。このシンポジウムに関する開催時間と場所については決まり次第、ご案内致します。